

# トータル保険だより

## 2019年7月号



(有)トータル保険がみなさんにお届けするニュースレターです。

《発行元》

有限会社トータル保険

令和 1年7月1日 第279号

〒997-0853 鶴岡市小淀川色田69-28

TEL:0235-25-1315 FAX:0235-25-1064

URL: <http://total-hoken.net/>

### こわれた自転車

11年前の、小学3年生になる前の春休みのことです。僕の学校では、3年生になって、自転車の乗り方、マナーの実習をうけないと、一人で自転車に乗ることが禁止されていました。両親からも、「お父さんかお母さんが一緒にやないと絶対に道路で乗っちゃ駄目だよ」と言われていました。でも、2年生は終わったし、お兄ちゃんと一緒にだいたい公園に思い、自転車で兄と近くの公園に出掛けました。友達と一緒に楽しく遊んで、帰る時間になりました。家に帰る途中、上り坂を横切る危険な所があります。手前で自転車を降りて、押しながら横断していました。すると、そこへ大きな車が勢いよく上ってきたのです。僕はとっさのことで、身動きできずに立ち止まってしまいました。ガシヤーン。車は自転車の前輪にぶつかり、僕もそのまま5メートルぐらい引きずられてしまいました。なんとか起き上がるのと、車を運転していた人が降りてきて、「大丈夫？」と声を掛けてくれましたが、僕が、「大丈夫」と答えると、そのまま走り去って行きました。本当は大丈夫ではな

かったのに、「自転車に乗っていたことが、ばれたら怒られる。どうしよう」という気持ちでいっぱいでした。今思うと、内緒にできるはずもないのに、「何とか親に知られないようにしなくては...」と、兄が壊れた自転車を抱えて帰り、家に着くとすぐ、壊れた自転車に雨よけのカバーを掛けて見えないようにしました。何もなかったかのように家の中に入り、自分の部屋に入った時には、ほっとしたのか涙が出てきました。でもさすがは母です。何となくいつもと様子が違うと感じたのか、母は兄に事情を聞いたようです。びっくりした母は、それからすぐに部屋に来て、泣いている僕を、「怖かったね」と抱きしめてくれました。それから母と自転車を持った警察署に行き、色々なことを聞かれ、事故の現場にも行き、家に帰った時には夜になっていました。仕事から帰って来た父に、全てを話しました。怒られるかと思っていましたが、父は、「お前たちが取った行動は良くないことだったけれど、大事に至らないでよかった。このぐにやぐにやになった自転車が、身代わりになってくれたんだね」と話してくれました。交通事故で、こわれて乗ることができなくなった子ども用の自転車は、あの日のことを忘れないために大切に残してあります。

### 保険のknowhow

事故の解決には必須かも

昨今、あおりの運転や高齢者ドライバーによる痛ましい事故が後を絶えません。

そこまでいかななくても「自動車事故」に遭うと、とかく揉めるケースが多くあります。何で揉めるか？責任割合です。当事者の事故による説明が違つのです。何故これ程までに違つのか？と思うことがあります。

そこで活躍するのが「ドライブレコーダー」です。

当社でもドライブレコーダーが付いていたおかげで、責任割合が逆転したケースがありました。こちら側の責任が無いことが認められたことから保険も使わずに済みました。



## 社内の出来事

### ★全国トップ代理店入賞(生保)

おかげ様で、2018年度「全国トップ代理店」に入賞させていただきました。

改めてお客さまに、社員みなさんに感謝申し上げます。ありがとうございます。

全国から345店の代理店の精鋭が東京の帝国ホテルに集まり、すばらしい一日を過ごさせていただきました。

表彰式に続いて、作家「100年経営の会」顧問の北 康利氏より『歴史の先人に学ぶ危機に強い経営』と題して講演を頂き学ばせて頂きました。熱い方でした！



#### ◆営業時間

朝9時から夜7時まで  
ニュース

会社にある花壇の紫陽花がきれいに咲きはじめました。その時期が来ると暑い、寒いなどと不足も言わず、きれいな花を咲かせ、私たちの心を和ませてくれます。紫陽花に学ばなきゃ！と思わされます。



## サラリーマン川柳

日本全国四七、五五九句の中から選ばれた優秀100句。第31回サラ川を彩る傑作の数々をご紹介します。今回は5作を紹介いたします。

- ① 飲み会で 上司の隣 ゆずりあう
- ② 朝一で 嫌いな上司の 予定見る
- ③ AIに 翻訳させたい 嫁の機嫌
- ④ 減塩の メニュー頼んで 塩かける
- ⑤ 俺ん家も 長期政権 嫁一強



## 情報カフェ

### “95歳まで生きるには夫婦で2千万円の貯蓄が必要”

大炎上している老後2,000万円問題。

年金制度への不信と不満を掻き立てる報道が多いのですが、あらためて年金制度について考える良い機会と捉えませんか？

年金は自身の老後の備えという部分しか見ていないから「損得勘定」で議論してしまいがちです。

でも、そうではなく、まず年金は「保険」であることを再認識する必要があります。

公的保険は3つの「保険」がパッケージされています。ひとつは65歳以上になって収入が少なくなるリスクをカバーする「老齢年金」。配偶者が亡くなった際に生活を維持するための「遺族年金」。

障害状態になった際に受給できる「障害年金」。つまり公的保険は人生の有事の際の「保険」であることがわかります。

公的保険アドバイザー 大川 淳

